

その抗菌剤本当に必要ですか？

たまきゅう便り

その抗菌剤本当に必要ですか？

近年メディアでMRSA（黄色ブドウ球菌）、MDRP（多剤耐性綠膿菌）などの薬剤耐性菌、実は日本だけではなく世界的に問題になっています。何も対策を取らない場合（耐性率が現在のベースで増加した場合）、2050年には1000万人の死亡が想定される（現在のがんによる死亡者数を超える）と言われています。

2014年に、世界保健機関（WHO）が現状に関する初の抗菌薬の動向調査報告を発表しました。2015年5月の世界保健総会では、「薬剤耐性（AMR）に関するグローバル・アクション・プラン」が採択され、加盟各国に2年内の自国の行動計画の策定を求めた。2016年4月5日に我が国の行動計画（アクションプラン）が策定・公表され2020年までに「抗菌薬の使用量を3分の2に減らす」「耐性菌に効果のある新薬の開発」などがあげられました。

ウイルス？それとも細菌？ あなたの病気の原因は何？

抗菌薬（抗生物質）は細菌（ばい菌）による感染症しか治せません。ウイルスによる病気を抗菌薬で治することはできません。主治医に抗菌薬を求めるのではなく、どのようにすれば症状がよくなるかを相談してください。

病気(疾患)	一般的な原因		抗菌薬 ？
	ウイルス	細菌	
かぜ(風邪)	✓		不要
気管支炎(せき・たん)(元々元気な成人/こども)	✓		不要
百日咳		✓	要
インフルエンザ	✓		不要
溶連菌咽頭炎		✓	要
咽頭炎(溶連菌以外)	✓		不要
渗出性中耳炎	✓		不要
尿路感染症		✓	要

抗菌薬がいつも「答え」ではありません

**SAVE antibiotics,
SAVE children**

**抗菌薬啓発週間
World Antibiotic Awareness Week**

<http://antibioticawarenessjp.jimdo.com/>

たまきゅう便り

発行
多摩丘陵病院
広報委員会
町田市下小山田町
1491

しかしながら、新薬の開発というのは計画的にすぐできるものではないので、国は2017年6月に医療従事者向けに『抗微生物薬適正使用の手引き』を公表し抗菌薬の適正使用を呼びかけました。その中でも外来の患者数が多く、不必要的抗菌薬処方が多いと推測される、急性感染症（いわゆる風邪症候群）、急性下痢症（感染性の腸炎など）に対して、抗菌薬を原則的に処方しないことを推奨しています。これらの疾患には抗菌薬が効かず、不要な服薬によって副作用のリスクもあることがその理由になっています。

風邪（かぜ）とは、上気道（鼻やのど）が微生物に感染することによって起こります。原因微生物の80～90%がウイルスです。まれに一般細菌、マイコプラズマ、クラミジアなどによる場合もあります。

風邪（かぜ）ウイルスの数は200種類以上といわれており、どのウイルスが原因で起つたのかを特定することは困難です。同じウイルスでもいくつもの型があり、それが年々変異するため、一度感染したウイルスに免疫ができたとしても、次々に新しいウイルスに感染して繰り返し風邪（かぜ）をひいてします。

一般的に「かぜ」の原因となるウイルスには、抗菌薬は効きません。このため、医師や薬剤師は抗菌薬を用いない理由を患者に十分に説明し、納得のうえで痛みや熱などの症状を和らげるための対症療法をおこない、休養や栄養補給を指導します。

急性下痢症は、細菌性・ウイルス性に関わらず成人の場合は自然軽快することが多いため、水分摂取などの対症療法がメインとなります。むしろ、抗菌薬の服用によって腸の善玉菌を損ね、下痢を長引かせることもあるといわれています。

抗菌薬は種類によって効果を最大限に發揮するために用法・用量が異なります。薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためにも、抗菌薬を服用する際は、医師や薬剤師の指示を守って、必要な場合に、適切な量を適切な期間、服用しましょう。また、耐性菌には、有効な抗菌薬がないことがあるため、まず感染しないことも重要です。感染を予防するためには、日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、マスクの着用、うがいなどが重要になります。また、生活や食事、休養などに配慮して、健康に気をつけることも大切です。私たち一人ひとりが、抗菌薬に対する正しい知識を持ち、正しい使い方をすることで、薬剤耐性を抜けないようにしましょう。

平成29年度自衛消防技術発表会へ出場

競正初到災害時に消防隊や救急隊が
わしき期着するまでに行なわれる活動が
れく消るのなびであります。て命活動が
る行火のなびがで

自衛消防隊は指示・命令する
「指揮者」
放水などを担当する「1番員」
で構成されます。

自衛消防技術発表会とは



平成29年度自衛消防技術発表会が9月14日に町田市南大谷の三井住友海上玉川研修所グランドにて行われました。

当院からは、医事課の長嶋光司（写真左：指揮者）検査科の村沢和樹（写真右：1番員）の2名が出場いたしました。

町田消防署では毎年9月に一定規模以上の事業所を対象とした自衛消防隊の消防技術発表会を行っています。万が一の災害に備え、当院でも自衛消防隊が毎年参加し、日頃の訓練の成果を発揮出来るよう頑張っています。

病院の火災は起きてしまうと非難が非常に困難なため、まず火災を起さないことが重要ですが災害が起きてしまった場合は自衛消防隊の隊員を中心に、職員全員が皆様の身体・生命の安全を第一に考え災害に立ち向かう覚悟であります。今後とも応援の程よろしくお願い申し上げます。



平成29年7月13日（木）当院3階リハビリテーションセンターにおいて、『第2回多摩丘陵地域医療を考える会』を開催しました。

今回は近隣の医療・介護従事者を対象として、「『救急医療』～医療機関受診・救急要請に際しての緊急性度の判定とその対応について～」をテーマに、島津院長、金子地域連携室長挨拶の後、渡邊看護部長による講演「救急受診～緊急性度判定について～」、匂坂（さぎさか）救命救急士による「応急処置法についての実技指導」、また町田消防署にも参加頂き、消防署から各施設等に向けての連絡・依頼事項の伝達を行いました。

参加された皆様には

「緊急性度判定の部分が理解しやすかった」
「夜間の急変時の対応、救急要請タイミング、トリアージ区分等を学べてよかったです」
「知識があるのとないのでは大きく違ってくるので、今回の講習は大変参考となつた」
等の声をいただき、終了後も質疑応答には答えきれないほどの質問が寄せられるなど、盛況のうちに終了しました。

会場には100人を超える介護・福祉施設方々の参加を頂き、地域医療連携に役立てたものと考えてあります。

「多摩丘陵地域医療を考える会」は今後も継続して開催を予定しております。次回は会場を院外施設に移して実施する予定です。



左上：島津院長からの挨拶

右上：渡邊看護部長による
講演

左下：匂先救命救急士による
実技指導

右下：会場の様子

第1回多摩丘陵病院 地域交流まつり

開催日時：11月11日（土） 入場無料
13:00～16:00 小雨決行

開催場所：多摩丘陵病院南棟下駐車場

ぬくもりの園

ぬくもり
フレンド珈琲

リハビリテーション部
松葉杖・車いす
介助体験

フラナス
シルクメロン・メロンパン
竹の炭カステラ・キャンディ販売

看護部
インフルエンザ対策
(手洗い・うがい・マスク)

イベントは変更になることがあります。
お子様向けヨーヨーくらい等他の企画も用意
してあります。飲食物以外基本無料です。
ぜひ、ご参加下さい。

桜美林学園

エイサー

健康管理部

簡易健康診断

（身長・体重・血圧・BMI・
体組成測定）

健康相談
体力測定

消防署 消防車展示
防火服着衣体験

上根神社・白山神社
お囃子グループによる

お囃子

言語聴覚士

とろみ調整食品
の使い方

スワンベーカリー
パンの販売

管理栄養士

食事相談・サンフルプレゼント！
(数に限りがあります)

お問い合わせ窓口

広報委員会事務

電話： 042-797-1511